



 子どもたちと身近な自然

真鍋 邦男（友の会会員）

かつて、こどもたちは、「道草を食わないで早く帰りなさいよ。」と親や教師に注意を受けながらも、学校やおつかいの行き帰りに、道端の草や虫たちとよく遊んでいたものでした。そして、それらが子どもたち同士を結び付け、生活を変化のある豊かなものにするとともに、知らず知らずのうちに子どもたちの物の見方を深め、心を豊かにしていきました。同時に、それらは、より多くの自然を学ぶ入口ともなっていました。しかし、しだいにそのような自然は少なくなり子どもたち自身も自然を相手に遊ぶ機会も少なくなってきています。もちろん、祖父母や親から子

どもたちへの、あるいは地域の自由な集まりである異年齢集団による伝承がなされなかったことにもよりますが・・・。

植物の観察会に参加することがありますが、植物の特徴だけでなく、それらの不思議さや、植物同士、人や動物とのつながり等について一緒に考えたり、身近な植物に触れ体感することに努めたりしていかなければならないと考えています。そして、木や草花の匂いや微妙な変化をも感じ、人間の小ささや、人間も自然の中の一員であることを、言葉だけでなく体感してもらいたいと思っています。また、観察会に参加したり、植物の標本作りをしようとする子どもたちは、「知りたい」という構えができている子が多いわけですから、そ



スズムシバナ

の意欲と感性を大切にしていきたいものです。しかし、現代の子どもたちではなく、自分を含めた大人も自然から離れ感動しにくくなっているのかな、ということを感じさせられることが多々あります。このようなことを考えたとき、かつては多くの子どもたちの冒険や活動の場であった鎮守の森や小さな雑木林、水田、畦、堤防など、子どもたちが生活し成長していくための基盤となる身近な自然を大切にしていかなければならないと思います。

さらに、これらの場は、身近にあるために取るに足らない場のように考えられがちですが、絶滅しかけている植物たちの生活の場であることもあります。例えば、スズムシのような形をした青紫色の花を咲かせるスズムシバナ（キツネノマゴ科）は、過度の除草や整地、樹木の繁茂による照度不足等が原因で絶滅が心配されています。また、四つ葉のクローバーのような葉を水面に浮かべるシダの仲間であるデンジソウ（テンジソウ科）も湿地の開発や農薬等による駆除により、生育が危ぶまれています。赤に黄色の縞模様の実をつけるオオカラスウリ（ウリ科）は、我々大人の経済効率からだけ考えれば、邪魔物でしかない身近な雑木林や遊休地等に生育しています。当然のことながら、いつ何時その生活環境とともに失われるか知



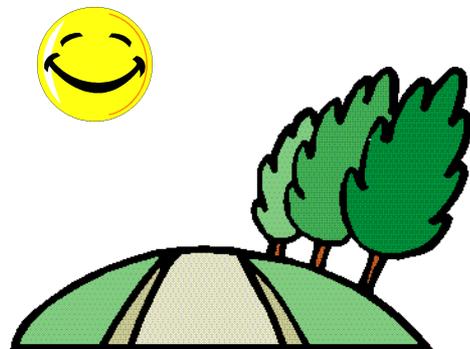
オオカラスウリ

れない状況にあります。

身近なところでも観察を続けていると、残された厳しい環境の中で一生懸命子孫を残していこうとしている植物（もちろん動物も）が発見することがあり、驚き、感動させられるとともに、わたしたちの生活のあり方を反省もさせられています。



デンジソウ



松茂町の散策

三原 茂雄（友の会会員）

小さな建て売り住宅を購入。そこから職場にひたすら通勤する日々。やっと解放されて否応無しに住居（松茂町）の周辺を見つめている。

去年のことで、今年の時期はこれからだが、松茂の田園の早朝は気持ちが良い。蓮の花・レンコンの花が、6時過ぎくらいまでは綺麗だ。暑い朝が早いので少しヒンヤリし、夏だが爽やか。蓮は大きくしっかりしているが、白い花は弱々しく、触れたくもあり、触れてはいけない、そんな感じがする。お釈迦さまでなくても、蓮の花の上は最高だろう。見るだけでも心が落ちつくのだから。

私の日課は、我が町・松茂町の図書館で新聞を読むことから始まる。気持ちのよいときは、少し北にある「松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館」まで足を延ばす。見学してもしなくても適度な散歩の距離なのだ。松茂町の川との関わり・戦いの歴史を常設展示している。

興味がある人には、中西仁智雄氏寄贈による「人形浄瑠璃芝居」コレクションは必見もの。館の資料を引用すれば「中でも『番付』と呼ばれる人形芝居の記録は、早稲田大学演劇博物館や大阪府立中之島図書館の収集資料に匹敵する貴重」なもので、館の自慢だ。

小さな資料館ではあるが、専任の学芸員がいて、質問や疑問にも答えてくれる。特別展示もあるが、入場は無料。蛇足、隣の三天神神社が可愛い。

資料館を後にして東に歩くと墓地がある。そこには、現在の松茂小学校の元となった寺子屋の師匠の墓がある。寺子屋というよりも、現今の言葉で数学塾というべき格調の高いもので、師匠の藤井勝之丞は徳島の数学を語ればかならず出てくる小出長十郎の弟子。藤井勝二も小出長十郎や小出



松茂町歴史民俗資料館・
人形浄瑠璃芝居資料館

行由岐太に学び、松茂小学校の初代校長を勤めた。墓石の側面には、修数学、学算数などが読み取れて、興味があれば暫し、時を忘れる。

爽やかで心の弾むときは、自転車で足を西に東に延ばす。他人の家を覗くのは気が引けるが、三木屋敷裏の船着場は何時までも見て飽きない。屋敷の中には資料館・三木文庫があるようだ。

西の端は長原の史蹟「三好長治終焉の地」も三好氏の栄華を偲べる。が、一抹の寂しさを味わう。

第十堰の改築か補修かは大きな政治問題。松茂は、「堰」を抜きにしては語れない。河口の水門は潮の満ち引き、第十堰からの水量に応じている。旧吉野川の河口の小さな、小さな町。干拓と開拓の新しい町。空はジェット機が飛ぶ。今日も歴史を刻んでいる。



右が藤井勝二、左が藤井勝之丞の墓

友の会行事報告



第9回 園瀬川探検参加記

stack 真由美 (友の会会員)

園瀬川探検第9回目は、園瀬川の上流佐那河内村を探検しました。

朝宮神社から、神山町との境・西府能まで往復10kmの行程です。桜の見頃には少し早かったのですが、天候が良くすがすがしい気分で歩くことができました。今回初参加の私は、学芸員さんや博識な参加者の方たちに刺激されて、目に映るものすべてに好奇心がわいてきました。自分の無知さに呆れながらも、多くのことを学ぶことができ、とてもよかったです。特に今回たくさんのお話を聞くことができた、神社や庚申さんについて書いてみたいと思います。

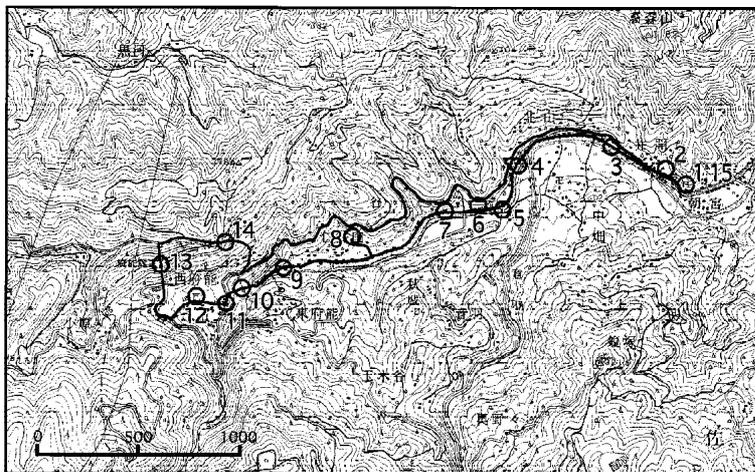
お昼前に訪れた仁井田神社には、徳島で画像のものとしては最も古いとされている板碑がありました。板碑は1331年鎌倉時代のもので、描かれたお地蔵さんに光背があるのは珍しいのだそうです。

ここでは、とても興味深いお話を聞くことができました。昔、この地に養楽寺というお寺があったのだそうですが、洪水で流されました。このお寺にあった板碑は、後になって拾われ、小さな谷の橋として架けられていたそうです。それを心あ

る人たちが見つけ、傍らにあった仁井田神社の境内に小さなお堂をつくり、納めて祀ったところ、いつ頃からともなく参拝者が増え、霊験もあらわれますます多くの信者でにぎわったということです。養楽寺は現存しませんが、仁井田神社の西隣に人家が2,3戸あってそれを「ようらりょう」と呼んでいるそうなので、養楽寺と何らかの関わりがあるのではないかということでした。

もう少し進んだ峠道では、青面金剛と三猿の像がある庚申塔がみつけられました。庚申さんは中国文化の「暦法」による庚申の日は、民衆にとけ込んで宗教行事となったのだそうです。庚申の夜は三匹の虫がお腹から抜け出して、天帝にその人の罪過を告げるので、眠ると命を縮めるといわれ、夜を寝ずに朝を待ったので「庚申待ち」といったそうです。佐那河内村でも、庚申の日は粳米の粉で作った庚申団子をお供えしたり、団子汁にして食べるのが風習だった(『ふるさと佐那河内村』より)ようです。

祠には丸い石がお供えとされていました。ぼつぼつと丸い石のお供えを見かけたので、とても気になっています。また、次回お話を聞きたいものです。他にも、魚や鳥の名前、草花の種類の知識も増え、イチゴ農家の方に“ももイチゴ”をいただいたし、と上機嫌で今回の探検は終わりました。



第9回ルートマップ (国土地理院1/25000地形図「阿波三溪」使用)

- 1, 15. 朝宮神社
2. 家神の祠がある民家
3. ホトケノザなど植物観察
4. 光明真言供養塔, 神社, 地神
5. 天岩戸別神社一之鳥居跡碑
6. 谷集会所, 祠, 神社 (ギオンさん)
7. 「蘇民将来子孫門」の札のある民家
8. 仁井田神社・板碑
9. 「高岡島太郎嘉明先生」の碑, 桜集会所
10. 地蔵, 庚申塔, 光明真言百万遍の塔
11. 祠, 板碑
12. 若宮神社, 地神
13. 府能隧道
14. 牛頭大王の祠, ニホンザルの群れ

2003年3月30日実施, 行程7.3 km

博物館紹介 21

あすたむらんど徳島 子ども科学館

米延賢治（友の会会員）

「あすたむらんど」とは、明日（あす）に多くの夢（たむ）がある場所（らんど）を意味します。甲子園球場のおよそ6倍という広々とした空間に、常設シアターとしては日本に例のないカレイド（万華鏡）シアター、4人乗りの小舟で上り下りの2ルートを楽しめる吉野川めぐり、あすたむらんどランドマークである風車のほか、四季折々に楽しめる草木や花々、たくさんの遊具や屋外展示物を配置しています。また、体験工房では科学工作教室を行っており、幼児から大人まで楽しく科学を体験できます。

公園の中核施設となる子ども科学館は、自然とふれあい、遊びや体験を通して科学する心を育てる参加体験型の施設です。「科学技術と自然環境との調和」を施設共通のテーマとし、屋内外の5つのコーナーに子どもたちが触れて楽しく学べる展示物を120種類設置しています。また、直径20mドームのプラネタリウムは、世界一の明るさを誇る最新の投映機で約3万8千個の星々を映し出します。

主な屋内展示は、100万ボルトの雷放電で木片を破壊する「カミナリシアター」、自分が作り育てたさかながモーションキャプチャーシステムにより架空の海を冒険する「いのちの海」、10人乗りのダイナミックな体感シアターの「アルファ21」などです。

科学館の特徴としては、積極的に屋外へ展示物を設置したことがあげられます。徳島県産の種子から育てた苗木約6000本を子どもたちが植樹した「あすたむの森」、100mの小道に古生代から現在に至るまでの地球の歴史を化石などにより紹介した「地球年代記パス」、周りからいろいろな生き物が訪れる「ピオトープ」、5mの高さから

ボールが落下する「ゴロゴロコースター」、プラネタリウムドームを太陽と見立て、水星・金星など9個の惑星を実寸比の模型にした「太陽系の惑星たち」などです。

幼児向けのコーナーとして、屋内には「キッズタウン」、屋外では消化管を模したトンネルで遊べる「くちからおしりまで」、バッタの巨大模型とのシーソー遊びができる「バッタのジャンプ」などがあります。

自然と科学にあふれる「あすたむらんど徳島」へぜひお越しください。



あすたむらんど徳島 子ども科学館

開館時間 午前9時30分～午後4時30分

*夏期(7月1日～8月31日)は閉館を1時間延長します。

入館料 常設展示 一般 500円
小中学生 200円プラネタリウム 一般 500円
小中学生 200円

*小学生未満は無料です。

*20名以上の団体は2割引きです。

*その他減免規定があります。

休館日 毎週水曜日
*祝日の場合は翌日

8月12日～15日の水曜日は除く

毎月第2木曜日 *8月の第2木曜日と祝日の場合は除く。年末年始(12月28日～翌年1月1日)

所在地 板野郡板野町那東字キビガ谷45-22
TEL 088-672-7111

友の会行事報告

こどもの日フェスティバル

～文化の森ウオークラリー～

今年も好天に恵まれ、昨年に引き続き「文化の森ウオークラリー」を実施しました。朝から夕方まで、大勢の参加者が文化の森をエリアとした全長やく km のコースを歩いてクイズに挑戦しました。

9時30分の受付開始時間には子どもたちがたくさん集まり、受付後それぞれ公園や各館内に設置された10のチェックポイントを地図とにらめっこしながら、スタートしていきました。館外のコースでは「徳島県の花・スダチを市町村の花としているところは？」「ボラ漁に使われていた大きな舟の名前は？」などの問題を友だちと相談したり、また保護者とともに楽しく解いてまわっていました。開催期間中の企画展「歴史を決めた戦い」の入り口に設置された問題では、馬防柵に目を見張ったり、恐竜のコーナーでのチェックポイントでは色紙を使って思い思いにちぎり絵に取り組んでいました。

役員をはじめとする友の会会員と博物館職員が協力して実施されたこの行事「今年は参加者が少ないなあ」という不安な声もありましたが、最終的には1000名を越える参加者があり、終日公園内には明るい歓声が響き渡っていました。

友の会役員の方々をはじめ、当日受付等でボランティアとしてご協力いただいた方には、本当にお世話になりました。ゴールをした子どもたちが、様々な景品の中からいろいろと手にとって選んでいるほほえましい姿に、「来年もまた来てね。」と声を自然にかけ一日でした。



スタッフ紹介

辻野 泰之 (地学担当学芸員)

4月から新任の地学担当の学芸員として働いています。子供の頃から生き物や化石といったものが大好きで、山

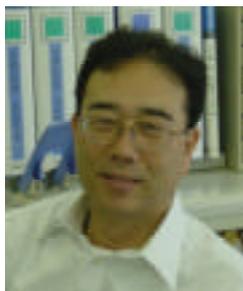


や川に出かけては色々な生き物を採集していました。地元の博物館にもよく通い、展示物を見ながら、将来は博物館で仕事がしたいと思っていました。大学時代は高知の大学で4年間、過ごしました。卒業研究で徳島県にも分布している和泉層群という白亜紀の地層で、二枚貝やアンモナイトの化石について研究を行いました。その卒業研究で一般的な渦巻き状のアンモナイトではない、鉛筆のように棒状のアンモナイトに出会い、この変な形のアンモナイトは、一体どんな場所で、どのような生きたかをしていたのだろうと疑問を持ちました。そして、大学院を京都に移した私は棒状のアンモナイトの研究に手を染めるようになりました。この棒状のアンモナイトを求め、日本各地、ときには海外までも調査に行っていました。徳島県は、今の研究をはじめのきっかけの地であり、もう一度、自分の研究の原点に立ち返り研究を進めていきたいと思っています。

化石というと普段、あまり接する機会がなく、また学校でもほとんど勉強しない分野です。でも本当は、絶滅してしまった生き物について考えることができる唯一の面白い分野です。博物館を通して、この化石の面白さを少しでも伝えることができたらと思っています。どうかよろしく願います。

斎藤修一（総務課主幹??）

博物館に足を踏み入れると、歴史の重みを呼吸した展示物から、文化の香りが漂って来ます。静寂に包まれた高い天井や、広々とした展示室の中で、ひやりとする空気と、ゆったりとした時間の流れを五感で味わいながら、展示物を見ていると、身体の中のストレスが溶解していくのを感じます。しかし時代の流れの中で、国立博物館が独立行政法人となっていくように、県立博物館も県民の様々な文化に対する要望にこたえるべく、変化の時を迎えているように感じます。そのような時代の転換点で、一人でも多くの県民の方々が、博物館の素晴らしさに触れ合う機会がもてるような、情報発信をしていけたらと考えています。



古東謙司（普及係主事）

倉敷市歴史民俗資料館でのぞき込んだ甕棺。とてつもない異臭に驚いた幼い日のことが今でも鮮明によみがえります。歴史に関心を持つようになった原点があの日にあるように思われます。あの日から何十年と経ち、この春から県立博物館で勤務できることになったが、自分にとって毎日が新鮮な感動の連続です。博物館に居てこそ得られる様々な情報や知識。恵まれた生き方をしている今に感謝。



まだまだ慣れない職種で、博物館のみなさんに助けられながら（あきらめもしながら）日々、勉強という思いでこれからも進んでいきたいと思えます。初心を忘れずに。

平成15年度総会の報告

4月27日午後1時より、博物館3階講義室において、友の会総会が開催されました。14年度の事業及び決算報告・監査報告、15年度の事業及び予算案についての審議が行われ承認されました。

平成15年度友の会事業計画

(1) 広報活動

博物館の広報印刷物を提供する。

(2) 展示解説・図録の増刷及び販売

15年度博物館企画展の図録を印刷・販売する。

(3) 会報の原稿募集並びに発行

友の会会報『アワーミュージアム』 22～24を発行配布する。

(4) 会員の募集

新しい会員募集案内を作成し、新会員を獲得する。配布先についても新規開拓をしていく。

(5) オリジナルグッズの開発

Tシャツ・キーホルダー等の製品の開発。

(6) 普及行事へのボランティアとしての協力

広く会員に呼びかけ、普及行事に協力する。

平成15年度友の会行事（予定）

こどもの日フェスティバル（博物館と共催）

文化の森ウォークラリー

日 時：5月5日（月）9：30～16：00

場 所：博物館および文化の森総合公園一帯

第10回園瀬川探険

日 時：6月8日（日）9：00～15：00

場 所：佐那河内村

自然体験「田植え他」

日 時：6月

場 所：八万町

しまなみ海道美術館探訪 バス利用

日 時：9月7日（日）

場 所：愛媛県大三島方面

自然体験「稲の刈り取り他」

日 時：10月

場 所：八万町

第11回園瀬川探検

日 時：10月下旬 9:00～15:00

場 所：佐那河内村

自然体験「刈り取り・脱穀」

日 時：10月下旬

場 所：八万町

自然体験「秋の収穫祭」

日 時：11月

場 所：八万町

冬の研修会（バス利用 1泊研修）

日 時：11月22日（土）～11月2

3日（日）

場 所：高知県 越智町 室戸市方面

第12回園瀬川探検

日 時：12月上旬 9:00～15:00

場 所：佐那河内村

自然体験「刈り取り・脱穀」

日 時：10月下旬

場 所：八万町

自然体験「秋の収穫祭」

日 時：11月

場 所：八万町

冬の研修会（バス利用 1泊研修）

日 時：11月22日（土）～23日（日）

場 所：高知県 越智町 室戸市方面

第12回園瀬川探検

日 時：12月上旬 9:00～15:00

場 所：佐那河内村

落ち葉の中の生き物special

日 時：1月下旬 10:30～15:00

平成14年度決算及び15年度予算

【収入】

項目	14年度予算	14年度決算	15年度決算
前年度繰越	12,164	12,164	20,039
会費	510,000	461,500	520,000
図録売上	785,600	685,630	709,600
行事参加費	320,000	218,840	320,000
雑収入	5,000	5,995	5,000
事務局整備積立金	400,000	280,000	380,000
合計	2,032,764	1,664,129	1,954,639

【支出】

項目	14年度予算	14年度決算	15年度決算
図録印刷費	860,000	367,355	450,000
グッズ制作費	0	280,000	380,000
館利用促進費	85,000	38,916	85,000
行事費	520,000	493,180	480,000
通信費	440,000	395,800	440,000
事務局費	49,764	31,678	41,639
報償費	10,000	0	10,000
保険料	20,000	1,161	20,000
総合案内積立金	48,000	36,000	48,000
繰越金		20,039	
合計	2,032,764	1,664,129	1,954,639

場 所：博物館実習室

企画展展示説明会

「歴史を決めた戦い」 4/27・5/18

「アイヌ工芸品展」 7/20・8/10

「アンモナイトのすべて」 10/26・11/16

平成15年度友の会役員

会 長 行成正昭

副会長 両角芳郎（博物館長）・和田賢次・

関真由子

幹 事 石原侑・徳山豊・多田精介・櫻原剛一

南部洋子・木下覺・澤祥二朗・大杉洋子・

石尾和仁

監 査 森本康滋・川下浩子

《事務局からのお知らせ》

今年度は本村忠昭（事務局長） 斎藤修一 上野秋利 古東謙司 大橋俊雄 茨木靖です。よろしくお祈いします。

第22号

2003年6月10日 発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



No.22

June
2003
Tokushima
Prefectural
Museum